

(様式第 10)

形大医管第 1125 号  
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

山形大学医学部附属病院長

久保田 功 (印)

山形大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒996-8560 山形市小白川町 1 丁目 4 - 1 2
氏 名	国立大学法人 山形大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人 山形大学医学部附属病院
--------------------

3 所在の場所

〒990-2331 山形県山形市飯田西 2 丁目 2 番 2 号	電話 (023) 633-1122
-------------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							<input checked="" type="checkbox"/> 有	無
内科と組み合わせた診療科名等								
1	2	3	4	5	6	7		
8	9	10	11	12	13	14		
診療実績								

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1 心臓血管外科 2 形成外科 3 4 5 6 7		
8 9 10 11 12 13 14		
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科
8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科
14放射線治療科 15麻酔科 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制		
一般的な歯科診療は診療所等の連携先で行い、特定機能病院である大学病院としては、主に複雑な症例について、医師10名程度で診療を行っている。		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1循環器科 2病理診断科 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	601床	637床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年9月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	314人	6.4人	320.4人	看護補助者	88人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	1.1人	11.1人	理学療法士	9人	臨床検査技師	40人
薬剤師	35人	0人	35人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	13人	0人	13人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	536人	19.2人	555.2人	臨床工学士	12人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	1人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	1人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	73人
管理栄養士	6人	0人	6人	診療放射線技師	30人	その他の職員	126人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	13人	眼科専門医	13人
外科専門医	24人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	9人
皮膚科専門医	10人	整形外科専門医	21人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	3人
		合 計	172人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	568.2人	7.0人	575.2人
1日当たり平均外来患者数	1193.2人	52.2人	1245.4人
1日当たり平均調剤数		811.2	剤
必要医師数			131人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			20人
必要(准)看護師数			330人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病 床 数		心 電 計	
集中治療室	129.5 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病 床 数	6 床	心 電 計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 66.53m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台 数 台		病床数	4床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床 積 49.65m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	364.08m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 臨床化学自動分析装置、 血糖・A1c 測定システム、免疫検査装置、 蛋白分画測定装置			
細菌検査室	70.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌同定/感受性検査装置、 LAMP法測定装置、結核用測定装置			
病理検査室	156.16m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理解剖室	80.61m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)			
研 究 室	10,583m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講 義 室	275m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	224人
図 書 室	1,195m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	7 室	蔵 書 数	91,911 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹 介 率	77.3%	逆 紹 介 率	71.8%
算 出 根 拠 A: 紹 介 患 者 の 数			10,204人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			11,240人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,902人
D: 初 診 の 患 者 の 数			15,648人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	5人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定【42-1】	0人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定【42-2】	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
放射線照射前に大量メトトレキサート療養を行った後のテモゾロミド内服投与および放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
オクトレオチド皮下注射療法	0人
FPDを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 (不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。))	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	血縁・非血縁同種骨髄移植	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 当院は県内唯一の骨髄バンク移植認定施設であり、院内のみならず他院からも依頼を受け、移植を行っている。			
医療技術名	血縁同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 血縁ドナーからの末梢血幹細胞採取後に行う移植。			
医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 臍帯血バンクから提供される臍帯血を用いた移植。通常の移植よりも厳格な管理を必要とする。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 骨髄腫や再発治療感受性のある悪性リンパ腫に対する、超強力な化学療法を行うための方策。			
医療技術名	HLA半合致同種移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 骨髄バンクにドナーがおらず移植を急ぐ場合に、NIMA/IPAの原理から可能になった移植技術。			
医療技術名	非血縁者移植骨髄採取術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 県内で唯一の骨髄バンク採取認定施設であり、県内のドナーで骨髄バンクより依頼があった場合に、麻酔科の協力のもと採取を行っている。			
医療技術名	アクリジンオレンジを用いた、骨軟部腫瘍手術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 悪性骨軟部腫瘍に対する縮小手術を施行した後、アクリジンオレンジを用いて残存腫瘍を殲滅する。			
医療技術名	自家培養軟骨移植術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 膝関節軟骨欠損に対し、患者自身から軟骨を採取、培養後に移植を行う。			
医療技術名	強度変調放射線治療 (IMRT)	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 照射野の形状を変化させた複数のビームを用いて、腫瘍の形に適した放射線治療を行う照射方法。			
医療技術名	定位放射線治療 (SRT)	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要 三次元的に細いビームを集光させて多方向から照射する照射方法。			
医療技術名	密封小線源 (RALS)	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 放射能をもつ物質 (Ir-192) を、腫瘍のすぐ近くに設置したアプリケーション内のいくつかのポイントに数分間静止させることにより、腫瘍へ体内から集中的かつ効率よく照射する方法。			
医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術	取扱患者数	123人
当該医療技術の概要 これまで顕微鏡下に行われてきた中耳手術を、全行程内視鏡下に行うもの。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	143人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	63人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	44人	・原発性胆汁性肝硬変	42人
・全身性エリテマトーデス	144人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	60人	・特発性大腿骨頭壊死症	39人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	25人
・サルコイドーシス	53人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	29人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	101人	・網膜色素変性症	20人
・特発性血小板減少性紫斑病	29人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	32人	・肺動脈性肺高血圧症	9人
・潰瘍性大腸炎	147人	・神経線維腫症	19人
・大動脈炎症候群	13人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	16人	・慢性血栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	22人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	55人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	0人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	5人
・後縦靭帯骨化症	22人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	38人	・ミトコンドリア病	5人
・ウェゲナー肉芽腫症	8人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	39人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	9人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	126人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙のとおり	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(別紙)

区分	届出名称
基本	地域歯科診療支援病院歯科初診料
基本	歯科外来診療環境体制加算
基本	歯科診療特別対応連携加算
基本	特定機能病院入院基本料
基本	臨床研修病院入院診療加算
基本	救急医療管理加算
基本	超急性期脳卒中加算
基本	妊産婦緊急搬送入院加算
基本	診療録管理体制加算2
基本	急性期看護補助体制加算
基本	看護職員夜間配置加算
基本	看護補助加算
基本	療養環境加算
基本	重症者等療養環境特別加算
基本	無菌治療室管理加算1
基本	緩和ケア診療加算
基本	精神科身体合併症管理加算
基本	精神科リエゾンチーム加算
基本	摂食障害入院医療管理加算
基本	がん診療連携拠点病院加算
基本	医療安全対策加算1
基本	感染防止対策加算1
基本	患者サポート体制充実加算
基本	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
基本	ハイリスク妊娠管理加算
基本	ハイリスク分娩管理加算
基本	退院調整加算
基本	新生児特定集中治療室退院調整加算
基本	救急搬送患者地域連携紹介加算
基本	データ提出加算
基本	地域歯科診療支援病院入院加算
基本	特定集中治療室管理料1
基本	ハイケアユニット入院医療管理料1
基本	新生児特定集中治療室管理料1
基本	新生児治療回復室入院医療管理料
基本	小児入院医療管理料2
基本	短期滞在手術基本料2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙の通り	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

区分	届出名称
特掲	植込型除細動器移行期加算
特掲	高度難聴指導管理料
特掲	喘息治療管理料
特掲	糖尿病合併症管理料
特掲	がん性疼痛緩和指導管理料
特掲	がん患者指導管理料1
特掲	がん患者指導管理料2
特掲	がん患者指導管理料3
特掲	外来緩和ケア管理料
特掲	移植後患者指導管理料(臓器移植後)
特掲	移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
特掲	糖尿病透析予防指導管理料
特掲	外来リハビリテーション診療料
特掲	外来放射線照射診療料
特掲	地域連携診療計画管理料、地域連携診療計画退院時指導料(Ⅰ)及び(Ⅱ)
特掲	ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)
特掲	がん治療連携計画策定料
特掲	がん治療連携管理料
特掲	肝炎インターフェロン治療計画料
特掲	薬剤管理指導料
特掲	医療機器安全管理料1
特掲	医療機器安全管理料2
特掲	医療機器安全管理料(歯科)
特掲	歯科治療総合医療管理料
特掲	持続血糖測定器加算
特掲	造血器腫瘍遺伝子検査
特掲	HPV核酸検出
特掲	検体検査管理加算(Ⅳ)
特掲	遺伝カウンセリング加算
特掲	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
特掲	植込型心電図検査
特掲	胎児心エコー法
特掲	時間内歩行試験
特掲	ヘッドアップティルト試験
特掲	人工臓臓
特掲	皮下連続式グルコース測定
特掲	長期継続頭蓋内脳波検査
特掲	脳磁図
特掲	神経学的検査
特掲	補聴器適合検査
特掲	コンタクトレンズ検査料1
特掲	小児食物アレルギー負荷検査
特掲	内服・点滴誘発試験
特掲	センチネルリンパ節生検(単独)
特掲	画像診断管理加算2
特掲	ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
特掲	CT撮影及びMRI撮影
特掲	冠動脈CT撮影加算
特掲	大腸CT撮影加算
特掲	心臓MRI撮影加算
特掲	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
特掲	外来化学療法加算1
特掲	無菌製剤処理料
特掲	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
特掲	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
特掲	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
特掲	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
特掲	がん患者リハビリテーション料
特掲	集団コミュニケーション療法料
特掲	歯科口腔リハビリテーション料2
特掲	認知療法・認知行動療法1
特掲	医療保護入院等診療料
特掲	エタノールの局所注入(甲状腺)
特掲	一酸化窒素吸入療法
特掲	歯科技工加算
特掲	悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
特掲	組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
特掲	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
特掲	腫瘍脊椎骨全摘術

特掲	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
特掲	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
特掲	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
特掲	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術
特掲	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
特掲	羊膜移植術
特掲	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
特掲	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
特掲	網膜再建術
特掲	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
特掲	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
特掲	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
特掲	乳がんセンチネルリンパ節加算2
特掲	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
特掲	経皮的冠動脈形成術
特掲	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
特掲	経皮的冠動脈ステント留置術
特掲	経皮的中隔心筋焼灼術
特掲	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
特掲	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
特掲	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
特掲	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
特掲	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
特掲	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
特掲	経皮的動脈遮断術
特掲	ダメージコントロール手術
特掲	腹腔鏡下肝切除術
特掲	生体部分肝移植術
特掲	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
特掲	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
特掲	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
特掲	腹腔鏡下小切開腎部分切除術
特掲	腹腔鏡下小切開腎摘出術
特掲	腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
特掲	同種死体腎移植術
特掲	生体腎移植術
特掲	膀胱水圧拡張術
特掲	人工尿道括約筋植込・置換術
特掲	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
特掲	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
特掲	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
特掲	輸血管理料Ⅰ
特掲	貯血式自己血輸血管理体制加算
特掲	自己生体組織接着剤作成術
特掲	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
特掲	内視鏡手術用支援機器加算
特掲	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
特掲	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
特掲	麻酔管理料(Ⅰ)
特掲	麻酔管理料(Ⅱ)
特掲	放射線治療専任加算
特掲	外来放射線治療加算
特掲	高エネルギー放射線治療
特掲	1回線量増加加算
特掲	強度変調放射線治療(IMRT)
特掲	画像誘導放射線治療(IGRT)
特掲	体外照射呼吸性移動対策加算
特掲	直線加速器による放射線治療
特掲	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
特掲	保険医療機関間の連携による病理診断
特掲	テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
特掲	テレパソロジーによる術中迅速細胞診
特掲	病理診断管理加算2
特掲	口腔病理診断管理加算2
特掲	クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	21回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 26例 / 剖検 7.9%

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん治療に伴う高次脳機能障害に関する総合的研究	鈴木 匡子	高次脳機能科	800,000	③補委 日本学術振興会
新しいバイオマーカーを用いた食道癌照射野の個別化	根本 建二	放射線治療科	800,000	③補委 日本学術振興会
腹部大動脈破綻におけるMafBの役割解明及びPET/CTを用いた画像化の試み	渡邊 哲	第一内科	1,400,000	③補委 日本学術振興会
家族性正常圧水頭症の病因遺伝子の探索	加藤 丈夫	第三内科	500,000	③補委 日本学術振興会
HRM法と次世代シーケンサーによる早期発症てんかん性脳症の新規病因遺伝子同定	加藤 光広	小児科	500,000	③補委 日本学術振興会
先天性好中球減少症のG-CSF受容体関連遺伝子異常の臨床的・生物学的意義	三井 哲夫	小児科	1,900,000	③補委 日本学術振興会
色素異常に関与する新規分子の同定と機能解析	川口 雅一	皮膚科	1,200,000	③補委 日本学術振興会
人工関節感染症における自然免疫系受容体TLRとNLRの機能解析	高木 理彰	整形外科	1,200,000	③補委 日本学術振興会
免疫監視細胞マクロファージを用いた急性炎症応答の評価	川前 金幸	麻酔科	1,200,000	③補委 日本学術振興会
ポリコム複合体による卵巣癌幹細胞のエピジェネティックな遺伝子制御機構の解明	須藤 毅	産科婦人科	700,000	③補委 日本学術振興会
聴性定常反応と睡眠脳波を応用した新しい他覚的聴力検査法の開発	伊藤 吏	耳鼻咽喉科	600,000	③補委 日本学術振興会
糖尿病網膜症病態における炎症機転惹起の分子機構と治療戦略の確立	山下 英俊	眼科	800,000	③補委 日本学術振興会
マイクロRNA解析による子宮体部漿液性癌の薬剤耐性機序の解明と治療応用への検討	永瀬 智	産科婦人科	323,976	③補委 日本学術振興会
IgA腎症の扁桃病変におけるIgA産生B細胞の発生機序	山川 光徳	病理診断科	600,000	③補委 日本学術振興会
認知症疾患でみられる無為の多面的解析の試み	斎藤 尚宏	高次脳機能科	700,000	③補委 日本学術振興会
メタボーム解析を用いたC型肝炎ウイルス増殖に関与する宿主代謝物質群の網羅的解析	渡辺 久剛	第二内科	1,800,000	③補委 日本学術振興会
心房細動・自立神経節アブレーションのメカニズム解明と臨床応用	有本 貴範	第一内科	1,000,000	③補委 日本学術振興会
リポ蛋白糸球体症の疫学および病態解明	橋本 多恵子	小児科	1,400,000	③補委 日本学術振興会
先天性中枢性低換気症候群の病態解明	佐々木 綾子	小児科	1,200,000	③補委 日本学術振興会
リポミクスと脂質代謝制御を基盤とした加齢による卵の質の低下に対する治療法の開発	高橋 俊文	産科婦人科	1,000,000	③補委 日本学術振興会
IgG4関連疾患の病態の解明と新規分子を標的とした治療戦略の展開	太田 信男	耳鼻咽喉科	1,500,000	③補委 日本学術振興会
新たな治療戦略に向けた眼内増殖性疾患における硝子体細胞の機能解析	西塚 弘一	眼科	1,500,000	③補委 日本学術振興会
微小粒子は、関節リウマチの形質細胞様樹状細胞を刺激し自然免疫反応を引き起こすか	高窪 祐弥	整形外科	1,000,000	③補委 日本学術振興会
糖尿病黄斑浮腫に対するポートフォリオシステムの構築	後藤 早紀子 (中野 早紀子)	眼科	1,357,047	③補委 日本学術振興会
活性酸素種による心筋障害の病態形成におけるユビキチン転移酵素Itchの機能解析	高橋 大	第一内科	1,900,000	③補委 日本学術振興会
ミトコンドリア老化関連蛋白GLO1による新たな心不全発症機序の解明と治療応用	舟山 哲	第一内科	1,600,000	③補委 日本学術振興会
新生児高ビリルビン血症の病態解明	佐藤 裕子 (早川 裕子)	小児科	1,600,000	③補委 日本学術振興会
眼皮膚白皮症4型の原因遺伝子SLC45A2の機能解析	紺野 隆之	皮膚科	1,000,000	③補委 日本学術振興会

子宮頸癌の画像誘導腔内照射の支持療法のランダム化第2相試験	黒田 勇気	放射線治療科	1,800,000	補委	日本学術振興会
亜鉛イオンによる骨芽細胞分化促進と骨再生療法の開発	遊佐 和之	歯科口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
多感覚統合による質感認知の脳神経メカニズムに関する臨床的研究	鈴木 匡子	高次脳機能科	2,700,000	補委	日本学術振興会
蒙古斑決定遺伝子の解明と機能解析	鈴木 民夫	皮膚科	600,000	補委	日本学術振興会
顔面神経麻痺に対する誘導シユワン細胞による再生治療ー自己細胞移植治療への挑戦ー	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	800,000	補委	日本学術振興会
脳血管障害の遺伝・環境要因解析を可能にする次世代ゲノムコホートの構築	嘉山 孝正	脳神経外科	12,700,000	補委	日本学術振興会
心-肺腎連関に与えるミッドカインの役割の解明	宍戸 哲郎	第一内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
老化とミトコンドリア機能異常におけるHMGB1の役割	久保田 功	第一内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
新規遺伝子改変マウスによる間質性肺炎発症および増悪に関するCCL1の機能解析	井上 純人	第一内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
鉄過剰・欠乏状態が実験肺気腫形成に及ぼす影響の検討	柴田 陽光	第一内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
結核菌感染に対するマクロファージの初期感染防御機構における転写因子MatBの役割	阿部 修一	第一内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
心理学的要因がテロメア長に与える影響	鈴木 昭仁	精神科	500,000	補委	日本学術振興会
嗜銀顆粒性認知症におけるアミロイドPETとアポリポ蛋白E多型	川勝 忍	精神科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳腫瘍幹細胞におけるLAT1の幹細胞性維持機構への関与の検討	櫻田 香	脳神経外科	1,500,000	補委	日本学術振興会
泌尿器科癌におけるZFHX3/ATBF1の機能解析と分子標的治療への応用	冨田 善彦	泌尿器科	1,800,000	補委	日本学術振興会
酸化ストレスと小胞体ストレスの制御による高齢不妊症患者のための新たな治療法の確立	五十嵐 秀樹	産科婦人科	1,200,000	補委	日本学術振興会
生体親和性多孔性膜(ハニカム膜)を用いた卵巣癌の新規治療戦略と癌幹細胞の樹立	太田 剛	産科婦人科	1,700,000	補委	日本学術振興会
Direct reprogramming法による疾患特異的肝内胆管上皮細胞の作製	上野 義之	第二内科	1,000,000	補委	日本学術振興会
骨肉腫における変異型イソクエン酸デヒドロゲナーゼの発現解析	土屋 登嗣	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
左房機能低下、慢性炎症のカテーテルアブレーション後の心房細動再発予測の検討	岩山 忠輝	第一内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
全エクソン解析によるてんかん性脳症の表現型に關与する遺伝学的修飾因子の検討	中村 和幸	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
遺伝性色素異常症病因遺伝子の機能の解明	山田 真枝子	皮膚科	1,400,000	補委	日本学術振興会
FOIパラメータは周術期呼吸器合併症の予測因子と成り得るか	五十嵐 朗	第一内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群の発症機序の解明ー患者臍帯由来iPS細胞を用いた解析ー	網田 光善	産科婦人科	1,000,000	補委	日本学術振興会
エストロゲン受容体を介する卵巣癌の増殖機構とそれによる薬剤耐性化機序の解明	松村 創平	産科婦人科	1,000,000	補委	日本学術振興会
肝臓における神経支配の変化と代謝機能の関連性の解明	水野 恵	第二内科	800,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病診断を目指した血液、髄液リン酸化 $\alpha$ シヌクレイン新規検出法の開発	佐藤 裕康	第三内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
虚血性心筋症におけるユビキチン転移酵素ITCHの機能解明	大瀧 陽一郎	第一内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
代謝疾患克服のための臓器間ネットワーク機構の統合的機能解明	上野 義之	第二内科	6,175,000	補委	日本医療研究開発機構
脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	嘉山 孝正	脳神経外科	12,308,000	補委	厚生労働省科研費
中隔視神経異形成症の実態調査と診断基準・重症度分類の作成に関する研究	加藤 光広	小児科	1,308,000	補委	厚生労働省科研費

合計 59

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Otaki Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Prognostic value of myocardial damage markers in patients with chronic heart failure with atrial fibrillation.	Intern Med. 2014;53(7):661-668
2	Otaki Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Electrocardiographic left ventricular hypertrophy cornell products is a feasible predictor of cardiac prognosis in patients with chronic heart failure.	Clin Res Cardiol. 2014 Apr;103(4):275-284
3	Otaki Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Association of renal tubular damage with cardio-renal anemia syndrome in patients with heart failure.	Int J Cardiol. 2014 May 1;173(2):222-228
4	Narumi T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	The obesity paradox is not observed in chronic heart failure patients with metabolic syndrome.	EXCLI J. 2014 May 12;13:516-525
5	Narumi T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Impact of serum omentin-1 levels on cardiac prognosis in patients with heart failure.	Cardiovasc Diabetol. 2014 Apr 23;13:84
6	Iwayama T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	The role of epicardial tissue in coronary artery disease in non-obese patients.	J Cardiol. 2014 May;63(5):344-349
7	Otaki Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Association of heart-type fatty acid-binding protein with cardiovascular risk factors and all-cause mortality in the general population: the Takahata study.	PLoS One. 2014 May 21;9(5):e94834
8	Sato K	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Association between plasma adiponectin levels and decline in forced expiratory volume in 1 s in a general Japanese population: the Takahata study.	Int J Med Sci. 2014 May 21;11(8):758-764
9	Iwayama T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Two-dimensional speckle tracking imaging as a novel strategy for accurately identifying the accessory pathway.	Intern Med. 2014;53(14):1527-1530
10	Netsu S	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Comorbidity of airflow limitation in patients with cardiovascular disease.	Exp Clin Cardiol. 2014;20(6):3788-3800
11	Aida Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Inhibition of elastase-pulmonary emphysema in dominant-negative MafB transgenic mice.	Int J Biol Sci. 2014 Aug 13;10(8):882-894
12	Wanazaki M	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Electroanatomical mapping of the atrialized right ventricle: Placement of a transvenous implantable cardioverter-defibrillator in a patient with ebstein's anomaly.	J Arrhythmia. 2014;30:382-384
13	Sasaki S	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Left atrial atrain as evaluated by two-dimensional speckle tracking predicts left atrial appendage dysfunction in patients with acute ischemic stroke.	BBA Clinical. 2014;2:40-47
14	Kamei K	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	A slight increase within the normal range of serum uric acid and the decline in renal function: associations in a community-based population.	Nephrol Dial Transplant. 2014 Dec;29(12):2286-2292
15	Yashiro Y	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Predictors of left atrial coagulation activity among paroxysmal atrial fibrillation patients.	Circ J. 2015;79(1):61-69
16	Daidoji H	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	A combination of plaque components analyzed by integrated backscatter intravascular ultrasound and serum pregnancy-associated plasma protein a levels predict the no-reflow phenomenon during percutaneous	Catheter Cardiovasc Interv. 2015 Jan 1;85(1):43-50
17	Hirayama A	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Slight increase in urinary albumin excretion within the normal range predicts incident hypertension in a community-based Japanese population: the Takahata study.	Hypertents Res. 2015 Jan;38(1):56-60
18	Narumi T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	High-mobility group box 1-mediated heat shock protein beta 1 expression attenuates mitochondrial and apoptosis.	J Mol Cell Cardiol. 2015 May;82:1-12

19	Narumi T	Department of Cardiology, Pulmonology, and Nephrology, Yamagata University School of Medicine	Sarcopenia evaluated by fat-free mass index is an important prognostic factor in patients with chronic heart failure.	Eur J Intern Med. 2015 Mar;26(2):118-122
20	阿部 靖彦	第二内科	Localized esophageal eosinophilia: Is it an early manifestation of eosinophilic esophagitis or a subtype of gastroesophageal reflux disease?	Dig Endosc. 26: 337-43, 2014
21	西瀬 祥一	第二内科	Relationship between tumor necrosis factor- $\alpha$ release and granulocyte and monocyte adsorption to cellulose acetate beads.	Ther Apher Dial. 18: 252-7, 2014
22	松田 暁子	第二内科	Pancreatic fat accumulation, fibrosis, and acinar cell injury in the Zucker diabetic fatty rat fed a chronic high-fat diet.	Pancreas. 43: 735-43, 2014
23	齋藤 貴史	第二内科	Transmission of hepatitis C virus from a mother to a child carrying IL28B heterozygote rs8099917 among three brothers: A long-term follow-up	J Med Cases. 5: 227-231, 2014
24	富田 恭子	第二内科	Epiregulin promotes the emergence and proliferation of adult liver progenitor cells.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 307: G50-7, 2014
25	富田 恭子	第二内科	Clinical manifestations of liver injury in patients with anorexia nervosa.	Hepatol Res. 44: E26-31, 2014
26	矢尾板 孝夫	第二内科	Treatment with anti-interleukin-6 receptor antibody ameliorates intestinal polyposis in Apc(Min/+) mice under high-fat diet conditions.	Tohoku J Exp Med. 235: 127-34, 2015
27	Arawaka S	第三内科(内科学第三講座)	Zonisamide attenuates alpha-synuclein neurotoxicity by an aggregation-independent mechanism in a rat model of familial Parkinson's disease.	PLoS One. 2014;9(2):e89076
28	Iseki C	第三内科(内科学第三講座)	Incidence of idiopathic normal pressure hydrocephalus(iNPH): a 10-year follow-up study of a rural community in Japan.	J Neurol Sci. 2014;339(1-2):108-112
29	Iseki C	第三内科(内科学第三講座)	Chronic headaches and sleepiness caused by facial soap(containing hydrolyzed wheat proteins)-induced wheat allergy.	Intern Med. 2014;53(2):151-154
30	Kohno K	第三内科(内科学第三講座)	Applying spatial epidemiology to hematological disease using R: a guide for hematologists and oncologists.	J Blood Med. 2014;5:31-36
31	Kohno K	第三内科(内科学第三講座)	Management of erythropoiesis: cross-sectional study of the relationships between erythropoiesis and nutrition, physical features, and adiponectin in 3519 Japanese people.	Eur J Haematol. 2014;92(4):298-307
32	Tajima K	第三内科(内科学第三講座)	Estimation of secondary measles transmission from a healthcare worker in a hospital setting.	Int J Infect Dis. 2014;24: 11-13
33	Yamamoto M	第三内科(内科学第三講座)	Expression of mRNAs for the diacylglycerol kinase family in immune cells during an inflammatory reaction.	Biomed Res. 2014;35(1):61-68
34	Sato H	第三内科(内科学第三講座)	Segmental copy number loss of the PCSK6 gene in sporadic amyotrophic sclerosis.	Curr Trends Neurol. 2014;8:23-29
35	Yamaguchi Y	第三内科(内科学第三講座)	Impact of ambulatory blood pressure variability on cerebral small vessel disease progression and cognitive decline in community-based elderly Japanese.	Am J Hypertens. 2014;27(10):1257-1267
36	Nakamura Kazuyuki	小児科	AKT3 and PIK3R2 mutations in two patients with megalencephaly-related syndromes: MCAP and MPPH.	Clin Genet. 2014 Apr;85(4):396-8
37	Hayasaka K	小児科	Medium-chain triglyceride supplementation under a low-carbohydrate formula is a promising therapy for adult-onset type II citrullinemia.	Molecular Genetics and Metabolism Reports. 2014;1:42-50
38	Nakamura K	小児科	PIGO mutations in intractable epilepsy and severe developmental delay with mild elevation of alkaline phosphatase levels.	Epilepsia. 2014;55(2):e13-e17

39	Nakamura K	小児科	A de novo CASK mutation in pontocerebellar hypoplasia type 3 with early myoclonic epilepsy and tetralogy of Fallot.	Brain Dev. 2014;36(3):272-3
40	Kato M	小児科	PIGA mutations cause early-onset epileptic encephalopathies and distinctive features.	Neurology. 2014;82(18):1587-1596
41	Onda T	小児科	Identification of novel ALK rearrangement A2M-ALK in a neonate with fetal lung interstitial tumor.	Genes Chromosomes Cancer. 2014;53(10):865-874
42	大谷 浩一	精神科	Correlations of interpersonal sensitivity with negative working models of the self and other:evidence for link with attachment insecurity.	Ann Gen Psychiatry. 13(1):5,2014
43	榎戸 正則	精神科	Implication of P-glycoprotein in formation of depression-prone personality:association study between the C3435T MDR1 gene polymorphism and interpersonal sensitivity.	Neuropsychobiology. 69(2):89-94,2014
44	大谷 浩一	精神科	Affectionless control by the same-sex parents increases dysfunctional attitudes about achievement.	Compr Psychiatry. 55(6):1411-4,2014
45	鈴木 昭仁	精神科	Relationship of the FKBP5 C/T polymorphism with dysfunctional attitudes predisposing to depression.	Compr Psychiatry. 55(6):1422-5,2014
46	大谷 浩一	精神科	Distinctive correlations of sociotropy and autonomy with working models of the self and other.	Compr Psychiatry. 55(7):1643-6,2014
47	榎戸 正則	精神科	Parental care influences leukocyte telomere length with gender specificity in parents and offsprings.	BMC Psychiatry. 14:277,2014
48	松本 祥彦	精神科	Serotonin transporter gene: a new polymorphism may affect response to antidepressant treatments in major depressive disorder.	Mol Diagn Ther 18(5):567-77,2014
49	林 博史	精神科	A case of major depressive disorder accompanied by multiple somatic delusions.	Yamagata Med J 32:81-3,2014
50	吉澤 順子	皮膚科	Variants in melanogenesis-related genes associate with skin cancer risk among Japanese populations.	J Dermatol. 2014 Apr;41(4):296-302.
51	島貫 美和	皮膚科	Positive selection with diversity in oculocutaneous albinisms type 2 gene (OCA2) among Japanese.	Pigment Cell Melanoma Res. 2015 Mar;28(2):233-5.
52	平賀 利匡	放射線診断科	Computed Tomographic Findings of Enterohemorrhagic Escherichia coli O157 Infection: An Analysis of a 7-Case Regional Outbreak.	J Comput Assist Tomogr. 2015 May-Jun;39(3):406-408
53	野宮 琢磨	がん臨床センター	Relationship between serum reactive oxidative metabolite level and skin reaction in an irradiated rat model.	Free Radic Res. 2014 May;48(5):572-9
54	野宮 琢磨	がん臨床センター	Phase I/II trial of definitive carbon ion radiotherapy for prostate cancer: evaluation of shortening of treatment period to 3 weeks.	Br J Cancer. 2014 May 13;110(10):2389-95
55	野宮 琢磨	がん臨床センター	Modified simultaneous integrated boost radiotherapy for an unresectable huge refractory pelvic tumor diagnosed as a rectal adenocarcinoma.	World J Gastroenterol. 2014 Dec 28;20(48):18480-6
56	木村 理	第一外科	A Patient with Advanced Breast Cancer Who Developed Bacterial Meningitis after Chemotherapy.	Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy. 2014;41:769-771
57	大泉 弘幸	第二外科	Techniques to define segmental anatomy during segmentectomy.	Ann Cardiothorac Surg.3(2):170-175,2014
58	大泉 弘幸	第二外科	Slip Knot Bronchial Ligation Method for Thoracoscopic Lung Segmentectomy.	Ann Thorac Surg.97:1456-8,2014

59	井上 尚	第二外科	Port-access Thoracoscopic Anatomical Segmentectomy for Pediatric Intralobar Pulmonary Sequestration.	The Thoracic and Cardiovascular Surgeon Reports.3:42-44,2014
60	松田 憲一郎	脳神経外科	Esophageal neuroendocrine tumor metastatic to the pineal region.	Brain Tumor Pathol. 2014 Jul;31(3):192-7
61	Maruyama M	整形外科	Outcoms of an autologous osteochondral plug graft for capitellar osteochondritis dissecans.	Am J Sports Med. 2014 Sep;42(9):2122-7.
62	Takakubo Y	整形外科	Role of innate immune sensors, TLRs and NLRP3, in rheumatoid arthritis and osteoarthritis.	J Long Term Eff Med Implants. 2014;24(4):243-51.
63	Takehara I	産婦人科	Dizygotic twin pregnancy after single embryo transfer:a case report and review of the literature.	J Assist Reprod Genet 31(4):443-446,2014
64	Ishida H	産婦人科	Uterine prolapse during late pregnancy in a nulliparous woman:a case report.	Int Urogynecol J 25(12):1739-1740,2014
65	Takahashi T	産婦人科	Brachial-to-ankle pulse wave velocity as an independent prognostic factor for ovulatory reponse to clomiphene citrate in women with polycystic ovary syndrome.	J Ovarian Res 7:74,2014
66	Seino M	産婦人科	Requirement of JNK signaling for self-renewal and tumor-initiating capacity of ovarian cancer stem cells.	Anticancer Res 34(9):4723-4731,2014
67	Yamanouchi K	産婦人科	The Wilms' Tumor Gene WT1-17AA/-KTS Splice Variant Increases Tumorigenic Activity Through Up-Regulation of Vascular Endothelial Growth Factor in an In Vivo Ovarian Cancer Model.	Transl Oncol 7(5):580-589,2014
68	Hara S	産婦人科	Peroxisome proliferator-activated receptor- $\alpha$ agonists prevent tumor necrosis factor- $\alpha$ -mediated inhibition of FSH-induced follicle development and estradiol production in a preantral follicle culture system.	J Mamm Ova Res 31(1):2-11,2014
69	Seino M	産婦人科	Differential contribution of ROS to resveratrol-induced cell death and loss of self-renewal capacity of ovarian cancer stem cell.	Anticancer Res 35(1):85-96,2015
70	Hasegawa A	産婦人科	Three-dimensional computed tomography of pelvic masses in mayer-rokitansky-kuster-hauser syndrome.	Obstet Gynecol 123(2):393-396,2015
71	望月 典子	眼科	Long-term outcomes of 3 surgical adjuvants used for internal limiting membrane peeling in idiopathic macular hole surgery.	Jpn J Ophthalmol. 2014;58(6):455-61
72	西塚 弘一	眼科	Minimally Invasive Scleral Fixation of an IOL Using a Suture Thread Insertor Combined With 25-Gauge Vitrectomy.	Ophthalmic Surg Lasers Imaging Retina. 2014;Jun 4:1-4
73	林 思音	眼科	Intraocular Pressure Decreases After Muscle Union Surgery for Highly Myopic Strabismus.	Jpn J Ophthalmol. 2015 Mar;59(2):118-23.
74	難波 広幸	眼科	The 'pleats fold' technique of amniotic membrane transplantation for the management of corneal perforation.	Cornea. 2014 Jun;33(6):653-7.
75	難波 広幸	眼科	Ocular higher-order wavefront aberrations in the Japanese adult population: the Yamagata Study	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Dec 11;56(1):90-7.
76	成味 真梨	眼科	Contribution of corneal neovascularization to dendritic cell migration into the central area during human corneal infection.	Plos One. 2014 Oct 9;9(10):e109859.
77	松井 祐興	耳鼻咽喉・頭頸部外科、組織解剖学講座、救急科	Role of the N-terminal hydrophobic residues of DGK epsilon in targeting the endoplasmic reticulum.	Biochimica et Biophysica Acta(BBA)-Molecular and Cell Biology of Lipids. 1841(10):1440-1450,2014
78	Tsukasa ITO	耳鼻咽喉科	Safety of ultrasonic bone curette in ear surgery by measuring skull bone vibrations.	Otol Neurotol 2014;35(4):e135-139

79	Kakehata S	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Extention of indication for transcanal endoscopic ear surgery using an ultrasonic bone curette forcholesteatomas.	Otol Neurotol 2014 Jan;35(1):101-7
80	西田 隼人	泌尿器科	Kidney fibrosis is independent of the amount of ascorbic acid in mice with unilateral ureteral obstruction	Free Radical Resarch:48: 1115-1124, 2014
81	岡田 真行	麻酔科	A comparison of continuous intravenous infusion versus continuous epidural infusion of droperidol for the prevention of post operative nausea and vomiting	Yamagata Med J. 32(2):51-58,2014
82	川前 金幸	麻酔科	Current respiratory management for Acute Respiratory Distress Syndrome	Yamagata Med J. 32(2):67-75,2014
83	川前 金幸	麻酔科	Healthcare Technology Management (HTM) of mechanical ventilators by clinical engineers	Journal of Intensive Care. 2(27),2014
84	中根 正樹	麻酔科	The effect of patient position during trauma surgery on fat embolism syndrome: An experimental study	Indian J Orthop. 48(2):203-210,2014
85	Tsuchiya R	Department of Anatomy and Cell Biology, Yamagata University School of Medicine. Department of	Downregulation of diacylglycerol kinase zeta enhances activation of cytokine-induced NF-kappaB signaling pathway.	Biochim Biophys Acta. 2015 Feb;1853(2):361-9
86	Ishikawa S	Department of Dentistry, Oral and Maxillofacial-Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine.	Angioleiomyoma of the tongue: a case report and review of the literature.	Odontology. 2014 Sep 11
87	鈴木 匡子	高次脳機能科	Functional significance of the electrocorticographic auditory responses in the premotor cortex.	Frontiers in Neuroscience:9:78,Doi:10.3389/fnins.2015
88	笹原 由理子 (旧姓:伊藤)	腫瘍内科	Personalization of Chemotherapy for Metastatic Pancreatic Cancer.	Clinical Medicine Insights:Case Reports. 2014 ;7:59-61
89	森兼 啓太	検査部	Factors associated with surgical site infection in colorectal surgery: The Japan Nosocomial Infections Surveillance.	Infect Control Hosp Epidemiol 2014;35:660-6
90	志田 敏宏	薬剤部	Preventive effect of gargling with sodium azulena sulfonate on everolimus-induced stomatitis.	Palliative Care Research 9(2):122-127,2014

合計90

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 審査の流れについて記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの定義、委員会の設置、実施方法等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理方針」に関する説明、 倫理審査委員会への申請方法、申請内容の留意点について	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

卒後臨床研修修了後の専門医取得に必要な高度先進医療の研修は、大学病院が最も得意とするところである。山形大学では各診療科が専門医に要求される研修内容に対応して緻密に組まれた独自の専門医養成プログラムを有している。  
また、山形大学には県内外の主要な教育病院及び山形県と合同で組織する「蔵王協議会」という組織があり、これにより大学附属病院と関連病院が有機的に結びついた研修が可能である。さらに、我が国の医学部で最初に導入した大学院社会人選抜枠を最大限に利用することにより、市中病院に勤務しながら大学院生として専門医取得のための研修や博士号取得のための研究を行うことができる。

2 研修の実績

研修医の人数	93人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
久保田 功	第一内科	教授	36年	
上野 義之	第二内科	教授	29年	
川並 透	第三内科	准教授	31年	
林 博史	精神科	講師	25年	
佐々木 綾子	小児科	准教授	22年	
木村 理	第一外科	教授	36年	
中村 潤	第二外科	講師	26年	
小久保 安昭	脳神経外科	准教授	19年	
佐々木 幹	整形外科	准教授	20年	
紺野 隆之	皮膚科	助教	17年	
長岡 明	泌尿器科	准教授	25年	
山下 英俊	眼科	教授	34年	
渡辺 知緒	耳鼻咽喉科	講師	21年	
細矢 貴亮	放射線診断科	教授	37年	
黒田 勇氣	放射線治療科	助教	11年	
永瀬 智	産科婦人科	教授	24年	
岡田 真行	麻酔科	助教	19年	
橋 寛彦	歯科口腔・形成外科	助教	13年	
中根 正樹	救急科	准教授	21年	
福井 忠久	腫瘍内科	助教	20年	
鈴木 匡子	高次脳機能科	教授	30年	
山川 光徳	病理診断科	教授	35年	
山川 真由美	疼痛緩和内科	講師	23年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>『口腔ケア歯科衛生士養成コース』（東北がんプロフェッショナル養成推進プラン）</p> <p>がん患者に対して効果的な口腔ケアが実践できる歯科衛生士を養成するため、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基盤的知識を講義するとともに、口腔ケアに関する理論と実践を学ぶ。</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>①平成26年4月～平成27年3月（月に1・2回程度）</p> <p>②平成26年10月～平成27年9月（月に1・2回程度）</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①平成26年4月～平成27年3月・・・1名（歯科衛生士）</p> <p>②平成26年10月～平成27年9月・・・3名（歯科衛生士）</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>



(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 久保田 功
管理担当者氏名	薬剤部長 白石 正, 看護部長 那須 景子, 総務課長 後藤 尚宏, 医事課長 菅原 幹夫

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	病院日誌	総務課	ファイルにて年度毎に分類, 保管している。
	各科診療日誌	看護部	ファイルにて年度毎に分類, 保管している。
	病棟日誌 処方せん	薬剤部	紙面にて入院, 外来別, 月毎に分類, 保管している。
手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報部 (診療記録室)	カルテ等病歴資料や, エックス線写真は, 電子カルテ上で共にコンピュータによる集中管理を行っているが, 一部の診療科においては, 紙カルテで運用している。 手術記録や紹介状等の文章はスキャンし, タイムスタンプを取得の上, 電子を保存し原本としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各担当でファイルにて年度毎に分類, 保管している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者, 外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部	
第規一則 項第一 第一条 の十掲 げ第一 体項各	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	各担当でファイルにて年度毎に分類, 保管している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	

の号 確及 保 び の第 九 条 の 二 十 三	専任の院内感染対策を行う 者の配置状況	総務課
	医療に係る安全管理を行う 部門の設置状況	医事課
	当該病院内に患者からの安 全管理に係る相談に適切に 応じる体制の確保状況	医事課

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター、 医事課
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 久保田 功		
閲覧担当者氏名	医学部総務課長 後藤 尚宏		
閲覧の求めに応じる場所	医学部管理棟第一会議室		
閲覧の手続の概要			
閲覧請求者は、閲覧申込書に必要な事項を記載して、必要書類（資格・身分を証明する証明書など）を添えて、医学部総務課庶務担当（情報公開担当）に提出し、閲覧の請求をすることができる。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： (1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方 (2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項 (3) 本院において医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における医療事故の報告等，医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他，本院の医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 17回
・ 活動の主な内容： (1) 医療事故等の院内報告体制に関すること (2) 医療事故等の原因分析，改善策の立案及び実施，並びに従事者への周知に関すること (3) 医療事故防止に関する改善策の検証及び見直しに関すること (4) 医療安全管理に関する啓発及び普及並びに研修に関すること (5) その他医療安全管理に関する必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 24回
・ 研修の主な内容： (1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について，従業者に周知徹底を行うことで，個々の従業者の安全に対する意識・安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図る内容 (2) 当院における具体的な事例等を取り上げた内容 (3) 当院全体に共通する安全管理に関する内容	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) あらかじめ定められた手順，事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集・分析することで，当院における問題点を把握し，組織としての改善策の企画立案及びその実施状況を評価し，これらの情報を共有する。 (2) 重大な事故の発生時には，速やかに管理者へ報告する。また，改善策については，背景要因及び根本原因を分析し，検討された効果的な再発防止策を立案する。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 3名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 ( 3 ) 名 兼任 ( 18 ) 名 ・ 活動の主な内容： (1) 医療事故等防止対策委員会の会議に関する事，その他庶務に関する事 (2) インシデント報告の分析及び医療事故防止対策の策定に関する事 (3) 安全管理のための研修，啓発普及，教育等の企画立案及び実施に関する事	

(4) 事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関すること (5) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関すること (6) 事故等の原因究明についての確認・指導に関すること (7) 医療安全管理に係る連絡調整に関すること (8) その他医療安全対策の推進に関すること	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	☑・無

(様式第6)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本院における院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>(2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項</li> <li>(3) 本院における院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針</li> <li>(4) 本院における感染症の発症状況の報告に関する基本方針</li> <li>(5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>(6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>(7) その他、本院の院内感染対策推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者に報告する。</li> <li>(2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知徹底を図る。</li> <li>(3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識向上等を図る内容。</li> <li>(2) 病院の実情に即した内容。</li> <li>(3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容。</li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 毎月1回院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会議で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。また、ICTラウンド時等の重点指導項目として活用する。 (MRSA, 多剤耐性緑膿菌等主要検出菌10数種を週報として把握)</li> <li>(2) 院内感染対策の指針に則した院内感染対策マニュアル「院内感染対策の手引き」を整備し、各部署に配布、ならびに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。また、各部門の感染対策担当者が毎月感染制御部に周知状況を報告、ICTラウンド時にも周知状況・理解度等を確認することにより、その周知状況の把握・検証を図っている。</li> </ol> </li> </ul>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7回
・ 研修の主な内容： (1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	☑・無
・ 手順書の作成 ・ 業務の主な内容： (1) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項 (2) 本院における医薬品の管理に関する事項 (3) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 (4) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 (5) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 (6) 本院と他施設との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	☑・無
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 厚生労働省からの副作用情報 (2) 採用医薬品の一増一減徹底 (3) 危険薬のリスト作成，病棟への配布 (4) 最大投与量のチェックシステム構築	



(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 10回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項</p> <p>(2) 医療機器の使用方法に関する事項</p> <p>(3) 医療機器の保守点検に関する事項</p> <p>(4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項</p> <p>(5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>特に保守点検が必要と考えられる医療機器に対する保守点検の状況は以下のとおりである。</p> <p>①人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>②人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>③血液浄化装置については、始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>④除細動装置については、定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>⑤閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>⑥診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。</p> <p>⑦診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。</p> <p>⑧シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 医療機器添付文書等の管理</p> <p>(2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報を病院長へ報告</p> <p>(3) 医療安全管理部との情報の共有や合同勉強会の開催</p>	